

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0390100170		
法人名	協栄テックス株式会社		
事業所名	グループホーム たんぽぽ 1階		
所在地	〒020-0142 盛岡市稲荷町2-5		
自己評価作成日	令和6年7月20日	評価結果市町村受理日	令和6年9月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action=kouhyou
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和6年8月20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

花壇や周りに様々な花を植えたり、今年からプランターで夏野菜を育て、水やりや草取り収穫など利用者が活躍できる場を提供している。施設内は日が差し込み木がふんだんに使われており温かみのある建物になっている。転倒骨折事故のリスクをクッション床を導入する事により軽減するよう配慮し、緊急避難時に備え各居室にベランダを備えている。感染症への対策として清掃方法は、オフロケーションシステムを導入し掃除用具を色分けするなどし清潔保持や洗浄効果等に配慮している。トイレや浴室、廊下の手すりには防カビ・殺菌・消臭効果を目的として光触媒を加工している。利用者には音楽体操や歩行運動・踏み台昇降などを実施し筋力低下を防ぐ働きかけを行っている。コロナ禍で外出が思うようにできない中でも四季折々の行事を企画したり、おやつレクなど利用者参加型の行事を実施し四季を感じながら楽しめるよう努めている。ホールや廊下等に利用者と共に手づくりの装飾を施し視覚的にも季節感が味わえる工夫している。利用者は一人一人に合わせクラフト・編み物・塗り絵・パズル等を行いおのびと生活している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

住宅街に位置する事業所では、玄関先に花を植えたり、野菜を育てたりして温かみのある外観にも配慮している。運営会社では感染予防対策に特に力を入れ、事業所に掃除専門の職員を配置して徹底した清掃に取り組み、安全で清潔な環境の維持に努めている。また、入浴専門の派遣職員を配置して職員体制を強化し、その他の本来業務や希望休暇取得に配慮するなど、働きやすい職場づくりに会社を挙げて取り組んでいる。食事は本社で作成した献立に加え、利用者と一緒に育てた野菜を調理して提供するなど、利用者の生きがいに繋がる支援に努めており、食事は利用者の楽しみになっている。利用者一人一人の希望に沿った余暇活動を提供し、ほとんどの利用者が日中は共有の空間で思い思いの時間を過ごしている。会社の方針で、事業所運営の透明化に積極的に取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

「評価機関:特定非営利活動法人 いわての保健福祉支援研究会」

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム たんぽぽ 1階

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	会社の共通の理念である「私たちはいつもあなたのそばにいて心的心声を聞いています」を念頭に日々の仕事に励んでいる。会話の中から思いを汲み取ったり表情や仕草にも注目し推し量っている。理念は玄関や各フロアに掲示し介護の指針となるよう努めている。また日々の業務の中でも職員同志で意見交換しながら本人の思いに寄り添える個別ケアに努めている。	「私たちはいつもあなたのそばにいて心的心声を聞いています」とする会社理念を基本に、リスクマネジメント委員会で4半期毎に行動目標を掲げ、具体的に取り組んでいる。7月～9月の行動目標を「食品衛生と水分補給で脱水予防」とし、取り組み後には問題点などを振り返り次回に活かし、日々実践に努めより良いケアを目指している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し、回覧板で地域の行事・活動等に確認している。地域の方々に運営推進委員になって頂き協力や助言を頂いている。又秋祭りで山車を出す際は寄付をし音頭上げをしに来て頂いている。また施設が地域の子供会の「こども110番」になっている。	町内会に加入し、コロナ禍前は町内の住民が事業所に来て一緒に体操するなどの繋がりがあった。今は、主に運営推進会議において介護を必要としている地域住民に呼びかけを依頼して、地域との繋がりを保とうとしている。今後は回覧板を活用して、地域へ情報提供を行うことも検討している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	回覧板を利用し徐々にホームの事を知ってもらう機会を増やしていこうと考えている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	町内会長・民生委員・近隣住民の方に委員に加わって頂き、行事や日々の生活状況を報告したり、委員からは意見や助言を頂く等している。今年度から市の実施指導の助言もあり、利用者にも運営推進会議に参加を求めている。	メンバーは、町内会長、町内会総務部長、民生委員、西口地域包括支援センター、家族代表、利用者代表で構成されている。事業所の取り組み内容について報告し率直な意見をいただいている。災害時の避難について具体的な助言を得るなど、支援のさらなる向上に活かしている。また毎月、利用者と家族の代表を入れ替えて出席を案内し、より利用者本位に沿ったサービスを提供できるよう取り組んでいる。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に地域包括支援センターの職員に参加してもらっている。不明な点については市の担当者に質問・相談し指導してもらっている。	市の担当課からはメール等で必要な情報を得ており、担当者とは、質問や相談ができる関係を築いている。西口地域包括支援センターとは運営推進会議でケアや事業所の様々な取り組みについて助言をいただいている。		

令和 6 年度

事業所名 : グループホーム たんぽぽ 1階

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を設置し、3ヶ月おき全体介護や勉強会等で身体拘束マニュアルの内容説明や質疑応答を行っている。防犯のために玄関を施錠している。	身体拘束廃止委員会でマニュアルをもとに研修を実施し、類似行為を例に個別ケアの在り方について職員の理解を深めている。高齢者虐待防止法の考え方についても、学習を重ねている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ユニット会議・身体拘束委員会・リスクマネジメント委員会で身体拘束となりうる事項を討議し、些細な事でも見逃さないよう注意を払い、未然に防げるよう努めている。また勉強会も開催している。定期的に虐待に関する理解度チェックを行い理解を深めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要時、担当者が対応している。成年後見制度を利用したい利用者について家族・弁護士と連絡を取り合い勧めた件があった。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の際は、契約書・重要事項説明書を説明し入居や退居の条件・身体拘束や看取りについてなど理解してもらってから契約してもらえよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進委員会での意見のほか、面会時やケアプラン発送時・電話などで意見や要望がないか聞き取るようにしている。	面会や外出の際に何気ない会話の中から、意見要望を聞き出すようにしている。また、情報誌やケアプランを発送した際に、近況などを添えて要望などを引き出せるよう努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々の業務の中で職員に意見や要望を聴いている。業務内容や勤務時間の要望・休み等の意見・要望などがあり反映するように努めている。また、36協定の代表職員を通じて要望を聴いている。	管理者は、普段から職員とのコミュニケーションを図り、意見、提案を話しやすい関係の構築に取り組んでいる。年1回の面談の際には契約更新や私的なことなども話し合っている。申し送りノートには気付いたことを各自が書き込めるようにして、業務改善に反映できるように工夫している。	

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム たんぽぽ 1階

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員がそれぞれの得意分野を活かして働けるよう配慮している。子育て世代へは就業時間や休日への配慮・職員全般には希望休の受付をしながら希望に沿えるよう配慮している。お互いに気持ちよく働ける職場作りに取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の経験年数や技量に合わせた研修に参加できるようにしている。各職員へも教育資料を使って研修したり理解度チェックをするなどして研修の機会を作っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市やグループホーム協会主催の勉強会などに参加するように努めている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前調査や入居時に本人や家族から話を聞き生活の全体像を把握できるようにしている。一緒に生活していく中で本人の言動や表情などから困りごとや不安ごとがないか聞いたり推察したりして安心していただけるよう努めている。入居前は出来るだけ本人に見学してもらい雰囲気を感じてもらおうよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用者の事に関する困りごとや不安ごとの他にも家族の経済面や体調面にも配慮しその都度相談しながら関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の情報から入居時のケアプランを作成している。その中に可能な限り本人や家族の希望を入れるように配慮している。また生活する中で必要があれば家族や主治医と相談し必要なサービスを見極めるようにしている。		

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム たんぽぽ 1階

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者が日々希望することや決定が難しくないよう選択できるような声掛けをしている。玄関先のベンチで外気浴した際傾聴し、ご自分の思いを表現し自己決定できるような働きかけをしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ケアプランやモニタリング・広報などの郵送・電話・面会などで施設の生活を報告している。些細な事でも家族に報告しコロナ禍で面会が制限されてる中でも生活ぶりを知ってもらえるよう努めている。入居間もなくで落ち着かない時は電話で声を聴かせてもらうなど協力してもらっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	訪問理容師と顔馴染みになっており会話も弾んでいる様子が伺える。なかなか外出出来ない中昔の話をするなどして馴染みの場所・人・歌等を聞き出している。	家族が面会時に近所の方を合わせたいと連れてきたり、通院帰りにお墓参りをしたり、美容院へ家族と外出して食事をしてくる利用者もいる。本人が書いた年賀状を家族に依頼して送ってもらうなど、家族の協力を得て、馴染みの人や場所との関係が途切れないよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う利用者同士を同じテーブルにしたりお互いに会話したりし心地よく生活できるよう努めている。トラブルになりそうなときは職員が介入し楽しく生活できるよう努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も家族や本人に合った環境や場合によってはケアマネージャーとつなぐなど今後の生活の提案などを行っている。		

Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中で何気なく話した言葉が本人希望のや要望であることがあるため見逃さないようにしている。利用者の行動や表情を観察し気が付いたことを業務日誌や申し送りノートに記録し職員間で共有している。	トイレ誘導時や入浴介助で二人きりになった時など、本音をボロリと話すことがあるので、見逃さないようにして、ノートに記載し職員間で共有出来るようにしている。朝に外を見て家に行きたいと呟いた時は、職員と一緒に外気浴を兼ねた庭の草花への水遣りから一日を始めるなどの対応をしている。	
----	-----	--	---	--	--

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム たんぽぽ 1階

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、 生活環境、これまでのサービス利用の経 過等の把握に努めている	入居以前の生活の様子を家族、担当ケアマネ、 本人から伺い日常の会話や行動等から生活歴を 把握するようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、 有する力等の現状の把握に努めている	個々の生活リズムを大事にしている。病状やそ の日の疲労感などから休息を促したり一人一人 の出来る事を把握し一日を快適に過ごして頂け るように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアの あり方について、本人、家族、必要な関係 者と話し合い、それぞれの意見やアイディ アを反映し、現状に即した介護計画を作成 している	入居時の暫定プランを作成の他、概ね3か月毎 に短期目標の評価・見直しを行っている。要介護 の変更時や状況が変わるごとにサービス提供期 間に拘らず見直しを行っている。ユニット職員で 短期目標の評価や見直しについて話し合い家族 に郵送している。	日々の支援について申し送りノートに記載し、3か 月毎に利用者担当職員、ケアマネージャー、管 理者がケアカンファレンスを行い、その内容を家 族に送付して確認してもらっている。6か月毎の介 護計画の見直しに際しては、返送する際に添え られる家族の意見や、パソコン上で共有した職員 の意見も取り入れている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや 工夫を個別記録に記入し、職員間で情報 を共有しながら実践や介護計画の見直し に活かしている	毎日の日誌には生活の様子を記入し、個々に介 護支援経過も詳細を記入している。また日々の 気づきは記録の他に申し送りやノートを活用し職 員間で情報を共有するように努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多 機能化 本人や家族の状況、その時々生まれる ニーズに対応して、既存のサービスに捉わ れない、柔軟な支援やサービスの多機能 化に取り組んでいる	家族の状況を考慮しながら事業所で出来る事を 柔軟に対応している。また本人にとって今何が 必要か見極め、場合によって他のサービスの情 報提供もしたりしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源 を把握し、本人が心身の力を発揮しながら 安全で豊かな暮らしを楽しむことができる よう支援している	運営推進会議に町内会長・民生委員に参加して 頂き意見交換する機会を作っている。		

令和 6 年度

事業所名 : グループホーム たんぽぽ 1階

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	入居前からのかかりつけ医を受診している利用 者・ホームの協力医に変更した利用者それぞれ である。家族の意向を踏まえながら適切な医療 を受けられるように支援している。必要であれば 専門医の受診等も支援している。	利用者は希望に沿って、入居前からのかかりつ け医に継続して受診している。受診する際には、 本人の近況をまとめ、付き添う家族も確認でき るよう封をしない状態で書面を渡している。家族 の付き添いが難しい利用者については、内科、歯 科、皮膚科、フットケアなどの往診やサービス を利用できるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情 報や気づきを、職場内の看護職や訪問看 護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	看護師は不在ですが急変時は、主治医や協力 医の指示で適切な医療を受けれるよう支援して いる。些細な変更を見逃さず早期発見に努めて いる。緊急性のある場合は救急車を要請して いる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、又、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談に 努めている。あるいは、そうした場合に備え て病院関係者との関係づくりを行っている	入院時は、園での生活状況や、介護の方法を情 報提供し、入院中でも病院担当者と連絡を取り 合いながら支援している。必要なものを届けたり 洗濯などの支援に努め、退院後はサマリーを 活用し症状の変化に注意している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と 支援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合 いを行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	重要事項説明書にて指針を作成している。ご本 人の意思を最大限に尊重し医師により終末期と 判断された時は、ご家族・医師・職員で担当者会 議にてご本人に一番いい方法を検討している。ま た終末期の対応について御家族の意向を把握し 方針を職員と共有しながら日常生活を継続して いる。	重度化した場合の対応については、看取りに関 する指針に沿って、協力医療機関の協力を得て 対応することとしている。実際に重度化してきた 場合には、医師、看護師等の協力のもとできる 限りの対応を行なうが、排泄や入浴などの支援 が事業所では難しいことを入居時に家族に説明 しており、同意の下で特別養護老人ホームへの 入居申込みを行なった例もある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全 ての職員は応急手当や初期対応の訓練を 定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応について各ユニット内の掲示し慌 てたり忘れたりしないようにしている。マニュアル を作成し職員間で共有している。AEDの使用方 法・胸骨圧迫の手順・緊急搬送の手順等を訓練 し危機管理意識を高めている。		

事業所名 : グループホーム たんぽぽ 1階

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	運営推進委員の方々の協力を頂き年2回避難訓練を行っている。ハザードマップで浸水危険区域となっており、緊急連絡網、水害時の避難訓練等の自主防災訓練を行い、災害時対応できるようにしている。AEDを常備し、災害時用として米・食料等の食料品を備蓄している。今年度より盛岡市のシェイクアウトに参加し地震・水害時の避難訓練も行っている。	年間2回の火災想定避難訓練と、2回の水害想定避難訓練を行なっている。火災避難訓練は夜間を想定し職員2人体制で行なっている。水害訓練は、会社の別事業所に利用者を移送する訓練を実施しているが、状況によっては垂直避難も選択できるよう備えている。非常時には、連絡網に沿って本社と地域住民に応援を要請する体制を整えている。	運営推進会議等で、地域住民へ避難訓練の見守りを依頼するなど地域との協力体制を築かれているが、加えて避難ルートの夜間の危険箇所を再確認し、より安全確実に避難できる取組みを進められることを期待します。

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーを大切に一人一人が分かるよう声掛けをしている。居室の入り口の、暖簾・表札を掲げプライバシーと人格尊重に配慮している。気のなる点は都度申し送りで話し合っている。	利用者の呼称は「さん」で統一し、人格を尊重した声掛けに努めている。失禁した場合には他の利用者に知られないような声掛けを行い、利用者の誇りに配慮している。入浴時の着替えなどは利用者の羞恥心に配慮し、プライバシーが守られる支援を心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が日々希望することや決定が難しくないよう選択できるような声掛けをしている。玄関先のベンチで外気浴した際傾聴し、ご自分の思いを表現し自己決定できるような働きかけをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	御本人のペースで過ごして頂けるようようにしている。体調等を考慮・危険がある場合を除き御本人の思いに添えるよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節にあった衣類の中から御本人の好みの洋服を選んで頂いている。定期的に訪問理容室を利用している。同じ理容師が来ており顔馴染みとなっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事にあった旬の食材を使い盛り付けや食器も工夫している。お好みにより調理法を替えたりしている。肉類が食べれない利用者には魚類などの代替え品を提供している。必要に応じてトロミをつけている。食事準備・テーブル拭き・食器拭きなどを手伝ってもらっている。	食事の献立は本社の栄養士が一括して作成し、各事業所で食材の購入、調理を行っている。また、家庭菜園で収穫した野菜をメニューに加え、利用者と一緒に収穫を味わえるようにしている。利用者の楽しみのおやつはすべて手作りで、利用者と一緒に作る機会としている。残食がほとんどなく、美味しい食事を楽しく頂いている。	

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム たんぽぽ 1階

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1人1人の咀嚼力や口腔内の状態・嚥下能力に応じて食事形態を変えている。食欲のない方には食べれるものを提供したり、エネルギーゼリーなどで足りない分を補ったりし、一日を通じて必要な栄養・水分を摂れるように支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後声掛けや誘導で歯磨きしている。必要な方にはブラッシングの提供をしている。状況に応じて家族同意のもと、往診を受けている。夜間帯は義歯洗浄剤に浸け清潔保持に努めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	食前・食後の他、チェック表を活用しながら時間が空いている利用者にはトイレ使用の声掛けをしている。尿量や時間帯において使用するパットを替え、なるべくトイレで排泄できるように努めている。訴えることが出来ない利用者でも仕草や排泄パターンからトイレ誘導をしている。	排泄は、時間を決めて声掛けを行っている。排泄チェック表を活用することにより、一人一人の排泄リズムを確認し、下剤調整を行うなどして、排泄の自立に向けた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	軽体操・腹部マッサージ・踏み台昇降を行っている。水分補給や食物繊維の多い食材を提供している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	2、3日に1回体調に合わせて入浴している。体調がすぐれない時は、翌日に入浴するなど臨機応変に対応している。入浴出来ない日が続いてときは、ホットタオルで清拭したり衣類交換や足浴、手浴、全身清拭などの対応をしている。	入浴介助のみ支援する派遣職員を配置して職員体制の充実を図りながら、週に2、3回は入浴出来るよう支援している。本人の意思を尊重し、入浴を嫌がる利用者に対しても無理強いすることなく、根気強く働きかけている。1対1になる入浴時間は、ゆったりとした中で、利用者から普段は口にしらないような話を聞くことができる貴重な機会にもなっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夕食後のテレビの視聴やお手伝いなどの役割、馴染みの利用者同士の団欒で安心して就寝出来るような時間を提供している。また何回も同じ事を確認する利用者の訴えに傾聴したり安心できる声掛けで安眠出来るようにしている。また自宅での生活スタイルを考慮し就寝時間後も眠くなるまでホールでテレビを視聴し休まれる利用者もいる。		

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム たんぽぽ 1階

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬情報、内容に確認し内容を把握するようにしている。変更があれば日誌・支援経過表・申し送りノートに記入し確認できるようにしている。配薬に間違いが無いよう2重チェックを行い、服薬時・服薬後もチェックを行い、飲み忘れのないように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	1人1人の生活歴や能力に応じて役割を持っていただき感謝の意を伝えながら多好感持って過ごせるよう配慮している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	おやつレクで何名かの利用者が市内のパン屋にパンを購入しに行ったり、お花見、紅葉などの時期にはドライブスポットに出掛けたりしている。天気の良い日には外のベンチで外気浴を楽しんだり季節の花を眺めたりしている。また家族付き添いの受診時などに自宅に行ったり外食を楽しむ利用者がいらっしやる。	コロナ禍が収まりつつある中で、少しずつ外気浴や家庭菜園の手入れ、食材の購入に、利用者も職員と一緒に戸外に出ている。かかりつけ医の受診の後、家族と一緒にの外食や一時帰宅を行うことができるよう支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在、ご自身で管理されている利用者はおりませんが、家族と本人の希望があり同意を得た方には自己管理してもらうようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば家族に電話をしたり、かかってきた電話を取り次いだりしている。毎年利用者が手書きで書いたメッセージ入りの年賀状を送っている。昨年は暑中見舞い葉書に夏の野菜を印刷し一人一人が色を塗り家族に郵送している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースは快適に過ごせるよう温度・湿度・採光・音に十分配慮している。食堂や玄関には季節を感じるような装飾、また利用者と職員で協力し作成した塗り絵や貼り絵を飾り、廊下には行事で撮った写真や施設便り等を飾り思い出作りの工夫をしている。利用者が飾ってある写真をみて会話を弾ませる姿も見られる。	玄関から廊下、食堂に至るまで掃除が行き届き、館内は清潔に保たれている。利用者が多くの時間を過ごす共用空間は広く、明るい採光の下で開放感がある。利用者とともに創作した工作が壁面に飾られ、季節を感じさせる風鈴の音が清涼感を演出している。テーブル席の他に、畳の小上がりスペースがあり、利用者が思い思いの場所で寛げるよう配慮されている。	

令和 6 年度

事業所名 : グループホーム たんぽぽ 1階

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ベンチ式の畳のスペースがあり、利用者同士が座って交流したり、足を伸ばしたり新聞を読んだり洗濯畳の手伝いをしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	クローゼットや電動ベッドは備え付けである。使い慣れた家具やテレビ、家族やペットの写真を飾り居心地良い空間となるようにしている。	入居時に、椅子やサイドテーブルなど使い慣れた家具を自宅から持参している利用者もいる。居室には、利用者の好みのカレンダーを壁に飾るなど、我が家として寛げる居室としている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの場所がわかるよう貼り紙をしている。居室の入り口には表札に名前と顔写真を貼り、居室前の表札を確認し安心して入る利用者もいる。		